

# ゲンティン・シンガポール (GENS)

「RWS 戦略 2.0」で非ゲーミング部門へ注力。統合リゾート  
 トランスフェスの短期2年から3年更新への復帰が急務  
 シンガポール | カジノ・ゲーミング | 業績フォロー

**フィリップ証券株式会社**

BLOOMBERG GENS:SP | REUTERS GENS.SI

- 2025/12期1H (1-6月) は、売上高が前年同期比10.4%減、純利益が同34.2%減。海外需要減少とリノベーションが相次いだことが響いた。
- 「RWS戦略2.0」でカジノ中心からエンターテインメント・ライフスタイル中心へとシフトを図り、テーマパークや水族館の新施設をオープン。
- 統合リゾートのライセンスについて、観光実績不十分と判断されて2年の短期更新へ。RWS2.0戦略の実行により3年更新への復帰が急務。

## What is the news?

8/7発表の2025/12期1H (1-6月) は、売上高が前年同期比10.4%減の12.14億SGD、為替変動その他の一時的要因の影響を除く調整後EBITDAが同25.8%減の4.23億SGD、純利益が同34.2%減の2.34億SGD。1Q (1-3月) は、前年同期のビザに関する特例が無くなったことの影響から落ち込みが大きかった。一方で、2Q (4-6月) は、主にゲーミング部門において、カジノにおけるVIPエリア (高額賭け金の上顧客エリア) 向けのローリングチップ (当該エリアのルームでしか使えず、自由に現金交換できないデッドチップ) の取引、およびウィンレート (業者ハウス側の収益となるレート) が伸びたことを受けて、売上高が同3%増の5.88億SGDとなった。利益面では、非ゲーミング部門において、シンガポール高に伴う海外からの需要減退およびRWS (リゾート・ワールド・センターサ) 2.0プロジェクトにおける「トランスフォーメーション (変革)」の一環としてホテルなどリノベーションが相次いだことが響いて減益となった。

1Hの主なセグメント別の売上高は、①カジノなどゲーミング部門が、前年同期比12%減の8.39億SGD、②ホテル宿泊部事業、アトラクション事業などを含む非ゲーミング部門は、同6%減の3.74億SGDだった。

## How do we view this?

政府が2019年に認可した拡張計画は、新型コロナウイルス禍で実施が遅れたため、投資額が2019年時点の45億SGDから、インフレを受けて68億SGDと5割増えた。これに対し、同社は超富裕層向けへの高級プレミアムブランドを訴求する「RWS (リゾート・ワールド・センターサ) 戦略 2.0」で対応している。また、ユニバーサル・スタジオ・シンガポールにおける新テーマゾーン「イルミネーション」の「ミニオンランド」を今年の2月にオープンしたほか、水族館を従来 (S.E.A. Aquarium) から規模を3倍にしてリブランド化して7月に再オープンするなど、カジノ中心からエンターテインメント・ライフスタイル中心へシフトを図っている。

シンガポールの統合型リゾートのライセンスは2010年の初回発行以降、3年ごと更新が標準だった中、RWSは2021年初～2023年末の評価対象期間で実績が不十分と判断され、2025年2月からの更新は2年の短期更新とされた。一方で、競合相手のマリーナ・ベイ・サンズが3年更新となったことから、ゲンティン・シンガポールは2027年2月の再レビューに向けて「RWS2.0戦略」をやり切る覚悟が求められている。

## 業績推移

※参考レート 1SGD=116.99円

事業年度	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12F	2026/12F
売上高(百万SGD)	1,725	2,417	2,530	2,523	2,708
当期利益(百万SGD)	340	611	578	537	602
EPS (SGD)	0.03	0.05	0.05	0.05	0.05
PER (倍)	27.80	18.08	14.50	15.98	14.41
BPS (SGD)	0.66	0.68	0.69	0.69	0.70
PBR (倍)	1.26	1.33	1.05	1.07	1.05
配当 (SGD)	0.02	0.03	0.04	0.04	0.04
配当利回り (%)	2.40	3.32	5.52	5.44	5.44

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

 配当予想 (SGD) **0.04** (予想はBloomberg)  
 終値 (SGD) **0.735** 2025/10/21

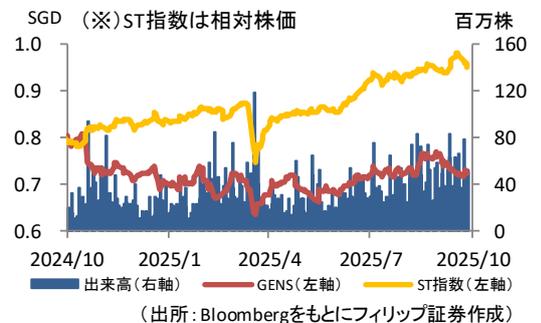
## 会社概要

マレーシアの実業家・富豪であるリム・ゴートンが設立したコングロマリットのゲンティン社を親会社とする。1984年にマン島で設立後、2005年にシンガポール取引所に上場。2018年に英国マン島からシンガポールに住所を移転した。30年以上にわたり、オーストラリア、バハマ、マレーシア、フィリピン、シンガポール、英国で、カジノ(ゲーム)および統合リゾート(Integrated Resort: IR)の開発を手掛けてきた。

2010年にシンガポールの一大観光地セントーサ島にファミリー向けトロピカルリゾートとして開発した「リゾート・ワールド・センターサ」は、ユニバーサルスタジオ・シンガポールやS.E.A水族館をはじめとする世界屈指のエンターテインメント施設であり、東南アジアで最大クラスの統合リゾートである。シンガポール初となるカジノのほか、6つのホテル、博物館といった様々なリゾート施設・設備が一堂に集まっている。

## 企業データ (2025/10/22)

ベータ値	0.65
時価総額(百万SGD)	8,883
企業価値=EV(百万SGD)	5,571
3ヵ月平均売買代金(百万SGD)	32.5



## 主要株主 (2025/10)

	(%)
1.ゲンティン	52.63
2.VANGUARD GROUP	1.88
3.ブ ヲック	1.66

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

## リサーチ部

笹木 和弘  
 kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp  
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。